

2025大阪万博

持続可能な調達 ワーキンググループ

令和4年7月19日



(一社)大日本水産会について【1882年(明治15)設立】

1. 設立目的

国民に安全で安心な水産物を安定的に供給し、国民生活の安定と向上に寄与するため、水産業の振興を図り、その経済的・文化的発展を推進すること。本年、創立140周年を迎えた。

2. 主な事業

- (1) 国内外における水産に関する問題の調査研究・対策樹立
- (2) 政府への陳情請願・意見具申
- (3) 講習・研修会、就業者の養成

- (4) 功績者の表彰
- (5) 刊行物の発行
- (6) 展示会等の開催、(7) 情報交換



(1) 日中韓民間業協議会



(2) 政府への陳情



(3) 講習会の開催、就業者の養成



(4) 水産功績者表彰



(5) 月刊誌水産界(1650号発行)
水産手帳発行



(6) 展示会の開催



(7) 会員間の情報交換

日本型水産エコラベルの普及促進

○水産エコラベルとは？

一定の環境基準(資源持続性や生態系への配慮)に適合している漁業や養殖業、およびその製品について認証を与え、定められたラベルを表示することが認められる仕組み。
消費者は、ラベルが表示された水産物を選択的に購入することで、資源の持続的利用に配慮した漁業・養殖業・流通加工事業者を応援することができる。



マリン・エコラベル・ジャパン(MEL)の特徴

(2007年本会で誕生し、2016年(一社)MEL協議会に移管。)

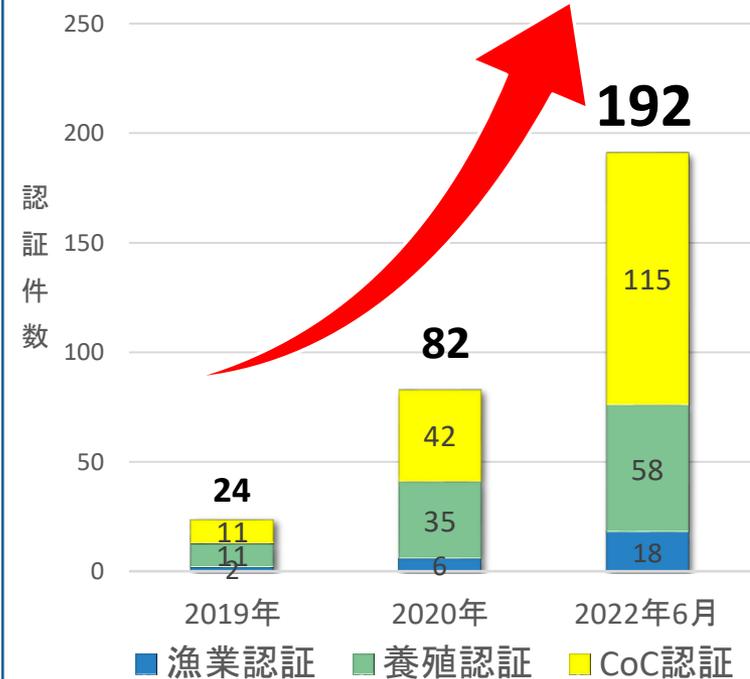
・日本発のスキーム。生物、環境、産業や食文化等の豊かな多様性に恵まれた日本の水産業の実態に対応しており、日本の生産者にとって取り組みやすい。

・世界で唯一、漁業・養殖業、流通加工(CoC)の3規格を有する国際標準化スキーム。

(令和元年12月、GSSI承認を獲得)

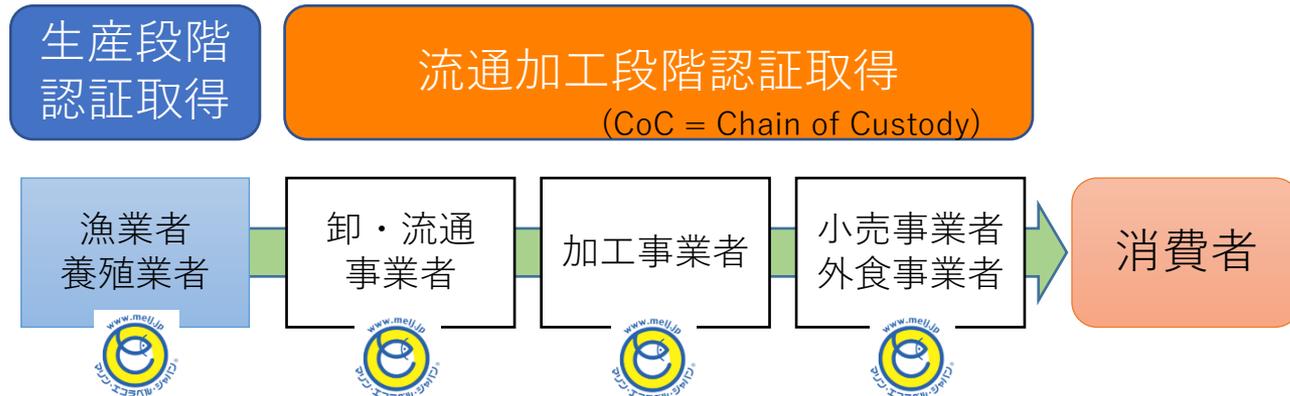
・認証水産物にロゴマーク  を表示して消費者へ持続可能な水産業をアピール。

MEL認証件数



MELの仕組みについて

- ・①生産段階認証(漁業・養殖)、②流通加工段階(CoC)の2段階があり、
- ・生産段階認証は、持続可能で資源や生態系に配慮した漁業や養殖業であること。
- ・流通加工段階認証は、認証された水産物が、非認証水産物と混ざることなく、流通・加工・小売・外食等の事業者を通して消費者に確実に届くこと。



認証水産物のフローについて

- 認証水産物を扱うすべての事業者が流通加工段階認証を取得
- すべての過程において認証水産物の識別が可能

(参考) GSSI承認された水産エコラベル (各組織のHPより引用)



Alaska RFM
漁業 (米国)
2016年7月承認



BAP
養殖 (米国)
2017年10月承認



G.U.L.F.
漁業 (米国)
2018年10月承認



Iceland RFM
漁業 (アイスランド)
2016年10月承認



GLOBAL GAP
養殖 (ドイツ)
2018年4月承認



CQA
養殖 (アイルランド)
2019年2月承認



MSC
漁業 (英国)
2017年3月承認



ASC
養殖 (オランダ)
2018年8月承認



MEL
漁業・養殖 (日本)
2019年12月承認

上記含め、世界には少なくとも140の水産エコラベルが存在するとされている